

東京TSネットセミナーVol.9「警察活動と障害～安永健太さん事件から考える」

2023年6月18日(日)に、「警察活動と障害～安永健太さん事件から考える」をテーマにセミナーを実施しました。今回も株式会社 TKC さんに会場をお借りし、会場とオンラインのハイブリッド型で開催をしました。

講師には、安永健太さん事件の代理人をつとめた弁護士の藤岡毅さんをお招きし、パネルディスカッションのパネラーとして、社会福祉法人南高愛隣会 法務・相談支援室(東京事務所)の南口芙美さんにもご登壇いただきました。

安永健太さん事件とは、2007年に起きた、知的障害をもつ安永健太さんが、作業所帰りに警察官に不審者と誤審されて取り押さえられ、これによって亡くなったという事件です。

初めに、安永健太さん事件の30分ほどのドキュメンタリー映画である、「いつもの帰り道で」を見ました。映画を見て、ご家族の方のやりきれない悔しさや悲しみ、そして今後このような事件を絶対に起こさせないという強い気持ちが伝わってきました。その後、藤岡さんから実際の裁判での争点や証言、判決から、警察官における障害についての理解不足や、警察官職務執行法における改正の必要性についてをお話していただきました。

この事件は、障害についての理解不足だけでなく、障害に関する差別や偏見についても深く関連していることから、警察と安永さんの間だけの問題として捉えるのではなく、自分自身も含めた社会全体の問題として考えていく必要があると感じました。

また、何らかのきっかけや事件が起こらなければ、障害についての理解が進まないというような社会のあり方についても考えていくべきであると思いました。

休憩を挟み、藤岡さんと社会福祉法人南高愛隣会の南口さんによる、パネルディスカッションを行いました。南口さんからは、福祉の現場において障害をもつ人が職務質問をされた時、通報された時、連行された時などの、警察が関わった場合にどのようなことが起きているのかについて、実際の事例をもとにお話していただきました。その中でも特に、周りからはわかりにくい障害を持つ方、障害者手帳を持っていない場合などには誤解が生じやすい、ということがわかりました。そのため、障害の有無に関わらず、常に想像力を働かせて人と関わる必要があると感じました。

質疑応答では、「今後私たちにできることは何か」という質問があり、お二方も、「何かしらのアクションを起こしてみる」とおっしゃっていました。福祉分野の人たち、障害に関する理解がある人たちだけで、障害についてや差別・偏見についての話をするのではなく、全くそれらについて関心のない家族や友人などに話してみる、共有することが大切であるということについて学びました。

今回の事件では、5人の警察官が取り押さえたということでしたが、「自分自身もその警察官の1人として居合わせた時に、健太さんを取り押さえることを止めることができたのか？」というように警察官の立場に立って考えること、そして「止めるためにはどうすれば良いのか」についても考えることが大切であると思いました。このようにこの事件は、他人事ではなく自分事の問題として捉えていくべき問題であり、だからこそ、この事件を風化させてはならないと強く思いました。

藤岡さん、南口さん、お話いただきありがとうございました。

学生サポーター 高橋 澄美